

平成 18 年度 活動報告会 議事録

・日 時 : 平成 19 年 6 月 23 日(土) 14:00 ~ 15:30

・場 所 : 石川県 NPO 活動支援センター「あいむ」会議室

・出席者 /

来賓 : 向田・二木・森川(国土交通省)、横川(石川県新幹線交通政策課)、中田・中村(金沢市)、中村(金沢工大)、岡本(公共交通をよくする富山の会)、清水・高橋(ふくい路面電車とまちづくりの会)、永原(明るい社会づくり運動)、岩谷(ハルティ・オブレイル北陸)、上田(富山商船高専学生) 計 13 名

会員 : 稲葉・浦・黍野・今度・藤田・村中・山崎・山内・吉田 計 9 名

・司会 : 黍野 ・記録 : 村中

・内容

1. 開会挨拶 (黍野)

2. 代表挨拶 (吉田)

3. 平成 18 年度の活動報告 [14:05 ~ 15:05]

1) 『山側環状』全線開通後の利用実態調査と課題』調査報告 (山崎)

昨夏の道路まつりと、10 ヶ月後の今冬と 2 回の調査を行った。アンケートの回答数は 1 回目が 214、2 回目が 177 で計 391 名の方から回答を得た。しかし 2 回目の調査時は降雪が少なく、積雪時の状況把握は今後の課題となった。

全線開通以降、市民の生活パターンの変化を感じる。買物や仕事上多くの人が利用しているのは、山環周辺に多くの大規模店舗が開店したためと考える。市民の山環全線開通に対する評価は高いものと思われる。しかしながら新たな渋滞が増加しているとの指摘もあった。今後も官民一体となった新しい金沢の道路戦略に期待したい。

2) 『横断歩道の安全性調査』調査報告 (今度)

今回は、犀川以南と山側環状周辺の地域を調査した。

山環では道路巾が広く、青信号の時間が短いと感じられる。横断歩道の間隔が長い所では、その中間付近で無理やり横断する人が目立ち危険である。その結果道路中央部の植樹帯に横断者の踏み跡がある状況で、今後の対策が必要である。

二万堂付近の地下道は大変きれいに管理され、小学生が安心して通行できる環境である。しかしラパーク横の道は、道路巾が広いのに横断用の信号が無く、通学の生徒が多い地区なので危険である。その他、歩道の樹木が大きくなりすぎて、狭い歩道を塞いでいる所や、側溝の蓋がずれている場所もあった。

問題のある箇所でも、近年は早めに改良されているようで、非常に喜ばしく今後も行政の対応に期待したい。

3)「高齢化社会へ向けての交通手段に関する調査」一次調査報告 (藤田)

高齢者運転の危険性が年々高まる中、人々が車を手放せないのはなぜなのか、市民の現状を探り市民と一緒に考えるためのアンケートを実施した。対象者を日常車を運転する・しないの2群に分け、また対象エリアを、中心部から郊外まで「新金沢交通戦略」の4つのゾーンに従って実施し、一次調査として178名の方から回答を得た。

公共交通が不便なために車を運転せざるを得ないという声は、中心部から郊外へ向かうほど大きく、高齢者の運転制度の見直しには、全域での公共交通網の整備が伴わなくてはならないこと、さらに、公共交通の利用が普及するには、歩行環境の整備が不可欠であることを認識した。また、車を運転する群の7割以上が車社会の弊害として地球温暖化を挙げていた。

4)「望ましいバス停のモデルデザイン提案」調査報告 (吉田・村中)

まず、山側環状と都心(兼六園)を結ぶルートを中心にバス停の実態調査を行った。金大周辺地域対象のバストリガー制度は非常に効果的で、100円バスエリアのバス停では乗車が多く、エリアをもっと広げて都心部に学生を呼び戻すことが出来れば、都心部の活性化にもつながり公共交通の利用促進にもなる。

その後兼六園下のバス停をイメージして、市立工業高校専攻科の生徒にデザインを依頼した。かまくらや駅の鼓門をイメージする木造の案等、ユニークなデザインが出された。さらにバス停の管理を広告収入で得て福祉施設にお願いする案、美大と地場産業とのコラボレートでデザインする案、大量生産し全国に展開する案等、目を引くものがあった。

5)「レール&サイクルライド能登島」実施報告 (村中)

JRに自転車を乗せ、のと鉄道にも乗車。能登島を半周し和倉温泉で新しい美術館を見学。(村中)

4. 質疑応答・意見交換 [15:05~15:25]

- ・非常に良い提案がなされているが、この提案に対して市が予算やデザインの採用等を行っているか？(永原)
- ・新金沢交通戦略(パンフ配布)で、同じ理念・発想の提案を行っている。(金沢市・中村)
- ・タウンモビリティ、中心街を高齢者が歩ける環境作りと政策が必要。電動車椅子や電動四輪カートを貸し出して、公共交通とのコラボレートを。(高橋)
- ・バストリガーの成果で旭町からは一杯になるようだが、もっと対象範囲を広げられないのか？(岡本)
- ・富山では公共交通のデザインを大学と協力し、市民に変化が感じられるような行動を取っている。高齢者だけではなく若年層や中学高校生中心にアンケートを取ってみたら良いのでは？(岡本)
- ・今年度は高校生対象に、道路上の自転車空間のアンケートを考えている。(吉田)
- ・歩行者用信号の青の点滅時間が金沢の場合極端に短く危険。延長が必要。(今度)

- ・山環が市民に良い印象を持たれていて、関わった側としても安堵している。
(工大・中村)
- ・市内の生活道路が、山環開通後通りやすくなっているとの市民の評価は、こちらの調査結果とも一致している。(向田)
- ・のと鉄道の切符は、金沢駅の自販機の一部でも買えるようになっている。(横川)
- ・金沢駅の一部の時刻表で、のと鉄道への連絡が表示されているのを確認した。(村中)

5. 平成 19 年度の活動計画(案)の概要説明 (吉田)

6. 閉会挨拶 (村中)

以上